

第13回情報システム学会 全国大会・研究発表大会 開催報告

実行委員長 内田 智史（神奈川大学）

第13回全国大会・研究発表大会が、2017年12月2日（土）に、神奈川大学横浜キャンパス（神奈川県横浜市）にて、「新たな価値を生み出す情報システムの潮流」をテーマに開催されました。42件の研究発表があり、大会参加者は109名でした。

今年は、基調講演を3名の講師の方にお願ひしました。

最初の基調講演では、大鵬薬品工業株式会社 信頼性保証本部 総括製造販売責任者 黒田尚様に、「企業における情報システム活用の新たな取組み」と題してご講演を頂きました。情報システム部門を含む様々な部門を経験した黒田様から、利用部門の責任者としてどのように情報システム構築に取り組んできたか、また、ご自身の経験を踏まえた人材育成の要点についてご講演をいただきました。

次に、パナソニックITS株式会社 技術管理部 開発推進課 黒田 光洋様からは、「『一人情シス』への反響から見た日本の情報システム部門の課題」と題して、ご講演を頂きました。ご講演では、配属先の情報システム部門が突然解散となり、たった一人のIT担当者、いわゆる「ひとり情シス」として情報システム部門の役割を一手ににない、たった一人で200台以上のサーバーを管理しながら業務システムも内製できる体制を築き上げたご経験を伺いました。さらには、ご自身のご経験を踏まえ、コストとIT活用の両立で悩む中堅中小企業を救う道筋について語って頂きました。

さらに3番目の基調講演として、神奈川大学 工学部 情報システム創成学科 教授、秋吉政徳様に、「人工知能が拓く（ひらく）情報システムの新たな展開」をテーマにご講演を頂きました。ご講演では、共生を切り口に社会のあり方を変革し始めている人工知能について、製造業、医療、観光、エンターテイメント、農業、株取引、情報システム開発現場に関わるプロジェクトマネジメントなど、広範囲に亘る分野について情報システムへの適用事例を中心とした構築状況のお話を頂きました。

本大会3件の基調講演に、参加者は大きな感銘を受けました。今後の情報システム学の研究・実践に大いに役立つことと考えています。なおこれら講演については、後日、学会からその概要をご報告することを企画しています。

大会後の懇親会は、大会当日の18時30分から、神奈川大学横浜キャンパス内の食堂にて行われました。参加者はおよそ40名でしたが、参加者一同、活発に情報交換を行い大いに盛り上がりました。懇親会の最中、ベストペーパー賞（BP賞）の発表も行われ、受賞者からの喜びの声が聞かれるなど、こちらも盛り上がりました。BP賞については、BP賞選定委員会から別途報告があるので、ここでは割愛いたします。

本大会は12月の開催でもあり、当初、参加者の減少が危惧されました。結果的には、多くの貴重なご研究について、昨年の大会に準じた数の発表の場を提供できました。また、4社に上る企業からの協賛、12の団体からの後援・協賛を賜りました。この場をおかりしてあつく御礼を申し上げます。本大会の開催は、ひとえに、大会参加者の皆様、学会関係者の皆様、後援・協賛を頂いた団体、企業の方々の「情報システム学」への熱い思いにより可能になったと考えます。大会実行委員会メンバー一同、喜びに感じるとともに、ホットしているところです。

大会の運営について、至らないところが多々あったと存じます。次回以降の全国大会・研究発表大会をより充実したものにするため、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

以上